

ちょっと一息。人権について考えてみませんか？

ふれあい 2018



「ふれあいたすけ愛みとめ愛」
谷口琳音さん（美浜中学校2年）

特集

障がい者スポーツから 人権を考える

すべての人は生まれながらにして自由であり
かつ尊厳と権利について平等である
— 世界人権宣言より —

人権宣言70周年

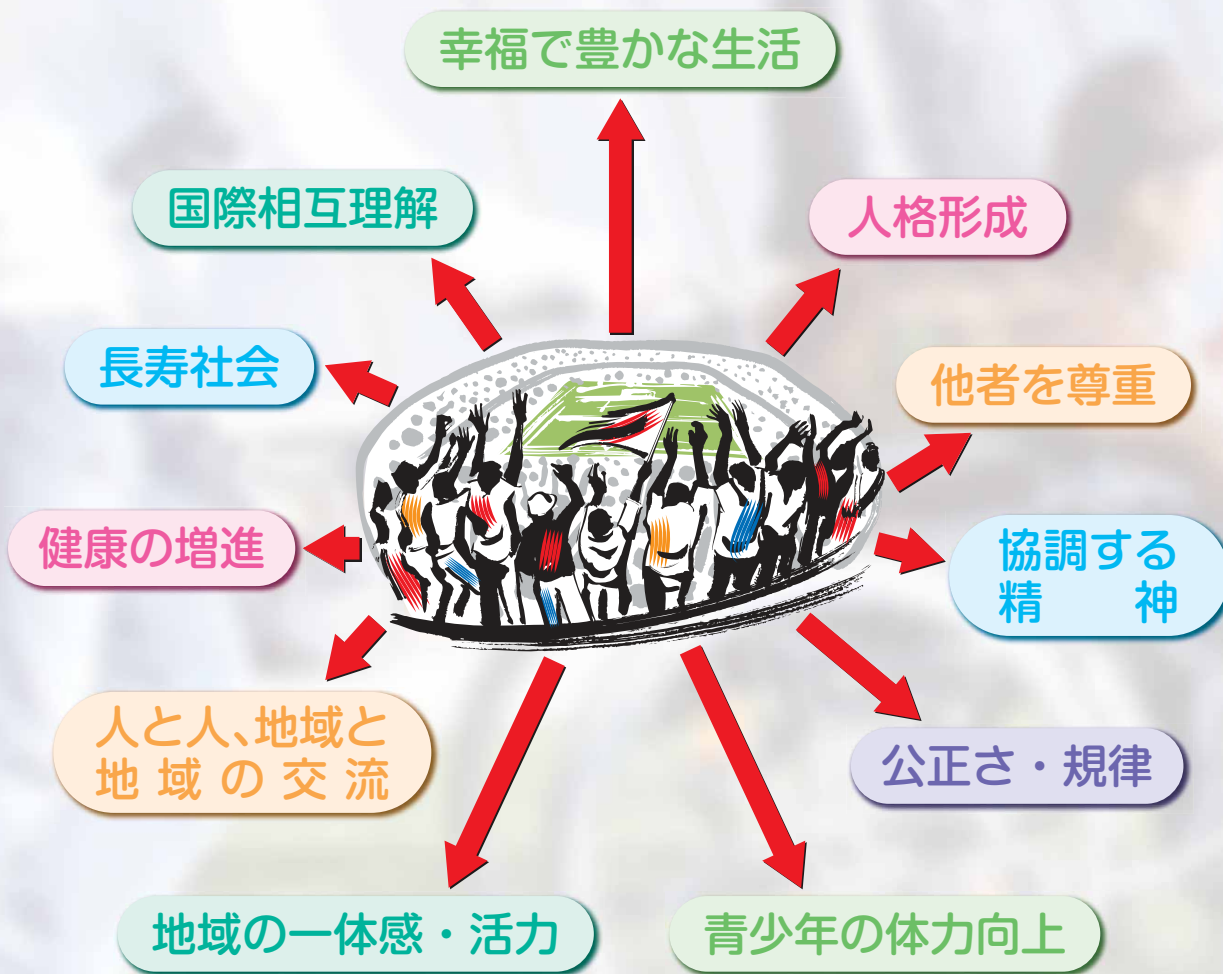


みんなの笑顔が
MIHAMA
かがやく美浜

◆ スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、
全ての人々の権利なんだよ。

スポーツの推進のための基本的な法律として、「スポーツ基本法」(平成23年8月24日施行)があります。

この法律は、スポーツに関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにし、スポーツに関する施策の基本となる事項を定め、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としています。



全国障害者スポーツ大会のシンボルマーク、21世紀の「21」をモチーフに、障がい者の「走る」「跳ぶ」「泳ぐ」姿をデザイン。

4つのカラーは「北海道(青=海)」「本州(緑=大地)」「四国(黄=光)」「九州(赤=太陽)」を表し、全国の障がい者スポーツの交流の場として、人と人との交流、地域との連帯を深める全国障害者スポーツ大会の未来への飛躍をシンボライズしている。

今年、福井県で「しあわせ元気国体・しあわせ元気大会」が開催されました。2020年には東京五輪・パラリンピックが開催されます。そこで、スポーツと人権について少し考えてみませんか。実は、スポーツと人権には深い繋がりがあそうです。

1908年IOCにより「オリンピック憲章」が制定され、その後定められた根本原則には、「人権の尊重」が謳われています。

- スポーツをすることは人権のひとつである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる。
- このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。(日本オリンピック委員会「オリンピック憲章」2016年版より オリンピズムの根本原則抜粋)

【スポーツの世界での人権】

Jリーグでサポーターが差別的な横断幕を掲げたことで、クラブ側の責任が問われ、無観客試合となったことがありました。スポーツ界は人権を重視しています。国内では一昨年、人権に関わる障害者差別解消法(4月)、ヘイトスピーチ対策法(6月)、部落差別解消推進法(12月)(それぞれ略称)が成立しました。これもオリンピックを開催する国(社会)としての準備なのかもしれません。

【パラリンピックの始まりは】

パラリンピックは、戦争で脊髄を損傷した兵士のリハビリとして、イギリスのストークマンデビル病院でおこなわれた車いすアーチェリー大会が基になっています。1960年のローマ大会開催後に、初めてパラリンピックが開催され、車いす選手によるアーチェリーや卓球など8競技が行われました。車いす選手以外の障害者選手がパラリンピックに参加するようになったのは、1964年の東京大会からです。



オリンピックマーク、いわゆる五輪マークは、単色または五色(左から青・黄・黒・緑・赤)の輪を重ねて連結した形で、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアの五大陸と、その相互の結合、連帯を意味しているが、どの色も特定の大陸を意味したものではない。



大会の象徴であるマーク(パラリンピックシンボル)は、人間の最も大切な3つの構成要素「心(スピリット)・肉体(ボディ)・魂(マインド)」を赤・青・緑の三色で表している。

☆他にも県内各地で多数の競技が…

◎正式競技（個人競技）

陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球【サウンドテーブルテニスを含む】、フライングディスク、ボーリング

◎正式競技（団体競技）

バレーボール、サッカー、バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール

◎オープン競技

卓球バレー、車いすテニス、ゲートボール



☆どんな競技なの？

◎サウンドテーブルテニスとは？



音がでるボールを、ネットの下をくぐらせるようにして打ち合います。卓球台は通常のものとは異なり、継ぎ目のない一枚板を使用します。打球が直接床の上に落ちないように、台の端に木の枠が取り付けられています。音を頼りにプレーする競技のため、ラリー中は選手、観戦者ともにしゃべってはいけません。



◎フライングディスクとは？

直径23.5cmのディスクを使用します。5mもしくは7m離れた輪にむけてディスクを投げ、その輪を通過した回数を競うアキュラシーと、投てき距離を競うディスタンスがあります。手・足・口等を使って投げることも可能で、視覚障がい者には、投てきの方向を音源で知らせることもできます。



◎卓球バレーとは？



卓球台を多数のメンバー（6人が多い）で囲み、相手の打球を3回以内で相手に返球します。ボールはネットの下を通らせて打ち合います。ラケットは長方形の板で卓球台を滑らせるように使います。車いすや椅子に座ったままプレーすることができます。



「全国障害者スポーツ大会」ってなあに？

《福井しあわせ元気大会2018～織りなそう力と技と美しさ～》

◎全国的な祭典

全国障害者スポーツ大会は、毎年開催されている障がい者スポーツの全国的な祭典です。国民体育大会開催県において、国民体育大会終了後、3日間の会期で行われます。

◎目的

全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がいのある方の社会参加の推進に寄与することを目的とした大会です。

◎歴史

全国障害者スポーツ大会は、平成12年まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」を統合して、平成13年に第1回大会が宮城県で開催されました。以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックのように、毎年、国民体育大会終了後に開催されています。今年、福井県で開催された大会が第18回大会となります。

◎今年は福井で…

幸福度日本一といわれるここ福井県で、県民の元気と創意を結集し、しあわせを感じ、元気があふれる大会が、平成30年10月13日（土）～10月15日（月）の3日間に渡り開催されました。県民みんなで全国からの参加者を温もりの心でもてなし、交流を通じて、しあわせと元気を全国に発信しました。

来年（2019年）は、茨城県で「いきいき茨城ゆめ大会」として開催される予定です。

☆美浜では「ゲートボール ※オープン種目」を実施

本町では、平成30年10月14日（日）に【美浜町西郷健康ひろば屋内運動場（久々子）】で、ゲートボールが開催されました。

ゲートボールは、チーム対抗形式のゲームですが、コート上でのプレーは常に1人の競技者でゲームを進行します。

◎誰でも楽しめる競技

障がいがあってもなくても誰もが楽しめます。肢体、聴覚、車いす、内部障がいの人たちも男女・年齢を問わず、仲間と楽しくプレーをしています。生涯スポーツの代表競技として身体、頭脳の働きを良くし、健康と長寿につながります。全国に13万人のゲートボール愛好者がいます。いつでも、どこでも親睦と交流を深めることができる競技です。



❖ 武長章朗さん (佐柿)

◇ 競技：ゲートボール

民生委員を引き受けたことを機に、15年ほど前からゲートボールをしています。はじめは打つボールのコースが定まらず、打ち方さえままならない状態でした。しかし「どうせやるなら、うまくなろう」と思い、一生懸命に練習しました。ゲートボールは精神状態が大きく影響するスポーツです。チームとしてプレーするスポーツなので、すこしミスをすると仲間から怒られたりすることもあります。それをぐっと飲み込んで冷静にプレーを続けていくことも大切です。どんなことがあってもあきらめずに練習を続け、今では全国規模の大会に出場できるほどになりました。私はゲートボールから、「努力を続ければ結果がかならず実る」ということを教えられました。



ゲートボールをプレーしていて、自分の狙うコースにボールが打てた時や、相手のボールをつかった戦術を決められたときなど、とても楽しいと感じます。また、その「楽しい」という気持ちが上達につながっていると思います。

私自身、聴覚に障がいがありますが、大会にはその他いろいろな障がいを持つ方が出場しています。たとえば、足に障がいがありギプスをはめてプレーしている方や、片方の腕を失っている方もいます。私はゲートボールは比較的重い障がいがあってもプレーできるスポーツだと思っています。選手それぞれが様々な障がいを抱える中、それを乗り越えて勝利を目指してプレーしている姿を見て、障がいをもつ方、そうでない方を問わず、前向きに努力していくことの大切さを感じてもらえたらうれしいと思います。



ともに戦ったチームのみなさんと集合写真

元気大会にて、集中して狙いを定める武長さん



【町内でいきいきとスポーツを楽しむ
方々にインタビューしました!】

❖ 山本美智子さん (郷市)

◇ 競技：陸上 (短距離走)



昔から身体を動かすことは好きでしたが、陸上競技をはじめたのは盲学校に入ってからです。短距離走の魅力は、スタート前の「緊張感」、走っているときの風を切る「爽快感」、そしてゴールしたときの「達成感」です。目が見えない分、その場の雰囲気を感じ取り取ります。たとえば、風の強さやにおい、音の聞こえ方などからその会場の広さや、人がどれくらいいるのかを感じ取ることができます。走っているときは伴走者の存在が不可欠です。残りの距離を教えてくれたり、「もう少し右!」などと走る方向を修正してくれたりと、とても心強く感じます。

目が見えないことによる他人との違いから、劣等感を感じたり、恥ずかしいと思っていた時期もありました。また、家庭では目が見えない不安感から、子どもたちにキツくあたってしまうこともありました。しかし今は「これが私だ」という自分への肯定感をもって、身体的に不自由な中でも楽しめることはたくさんある、と思うようになりました。今では陸上だけではなく、カラオケも楽しんでいます。自分の好きなことや得意なことを通して、いろいろな人と関わっていると、まわりの人達が私の障がいを理解して声をかけてくれるようになりました。



伴走者とともに懸命にはしる山本さん

今、なにかしらの障がいがある、家に閉じこもっている人がいたら、おもいきって外に一步を踏み出してみたいと思います。私にとっての陸上競技がそうであったように、そこには新しいよこびや生きがいがあるということを感じられると思います。目が見えないことで気分が沈んでいたり、不安を感じたりしている人は、自然が多い場所にぜひ足を運んでみてください。草木や花のにおいがかいだり、滝や川の音を聞いたりすると、気持ちがやすらぎ、晴れやかな気分になれるはずですよ。